

# 28年9月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年9月1日～ 28年9月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
9月分の回答企業数は10社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### 素材生産動向

品目		28/9月	10月	11月
伐採動向	スギ	△ 8.3	8.3	25.0
	ヒノキ	△ 40.0	△ 12.5	12.5
	カラマツ	△ 10.0	12.5	0.0
	エゾ・トド	△ 16.7	0.0	16.7
出荷・販売動向	スギ	△ 25.0	△ 16.7	8.3
	ヒノキ	△ 16.7	16.7	16.7
	カラマツ	0.0	0.0	16.7
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 25.0	25.0
手持立木在庫動向	スギ	8.3	0.0	16.7
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	カラマツ	0.0	16.7	16.7
	エゾ・トド	25.0	25.0	25.0

・原木の伐採は全樹種で9月は減少するが、10月、11月は総じて増加ないし横ばい。

・スギ及びエゾ・トドの出荷・販売は9月、10月の減少が11月は増加に。ヒノキは9月の減少から、10月、11月は増加。カラマツは9月、10月の横ばいが、11月は増加。

・手持立木在庫はスギ、カラマツ及びエゾ・トドは総じて3ヵ月連続して増加。ヒノキは9月、10月の減少が、11月は横ばい。

### モニターからのコメント

#### (伐採動向)

- ・盆休み以降、北海道には3つの台風が上陸して林道等に被害が出た。8月中旬以降は天候に恵まれず、作業に遅れが出た。災害復旧のため9月の伐採にも遅れが出て、伐採は減少である(北海道)。
- ・現在、国有林の素材生産請負事業の施工中(北海道)。
- ・伐採は、間伐班と危険木撤去班に分かれて作業(北海道)。
- ・9月生産請負終了、10月以降伐採予定なし(中部)。

#### (出材・販売動向)

- ・9月の伐採の遅れから出材・販売も減少(北海道)。
- ・出材は危険木撤去をするため行うので、スギ、ヒノキの出材はやや減少(中国)。
- ・北海道の木材生産が台風で落ち込むので、九州が増産と予想(九州)。

#### (手持ち立木在庫)

- ・国有林の立木公売で購入する予定なのでやや増加(北海道)。